



2021 日本のうたごえ祭典 in ひろしま

企画ニュース⑧

発行 2021.9.28

祭典企画委員会

広島に集い、高らかに歌いましょう!!

「こわしてはいけない～無言館をうたう」

長野県上田市で戦没画学生の作品による美術館「無言館」を主宰する作家の窪島誠一郎氏による6編の詩に、作曲家・池辺晋一郎氏が混声合唱組曲として発表した作品「こわしてはいけない～無言館をうたう」は、2016年9月に上田市で初演されました。

今回の「こわしてはいけない」祭典合唱団(仮称)結成においても、長野県うたごえ協議会の皆さんが中心となって活動してくださっています。

「コロナ禍の中、2年ぶりに開催する祭典において、全国合同でうたうことを想像するだけで涙が出そうです。」と長野県うたごえ協議会議長の伊藤常雄氏は語っておられます。



(写真はいずれも 長野県上田市 無言館)

さて、広島では、三上和伸氏指揮により、2017年に上演。その際には、窪島誠一郎氏も来広され、強い感動を覚えたことが、昨日のこのように思い出されます。

また、それを機に合唱団員で無言館を訪れ、静謐な雰囲気の中で多くの絵画や遺品に向き合えたこと、窪島さんや上田市のうたごえのみなさんと交流できたこと等も感慨深い出来事でした。

戦後76年の時を経た今、コロナ禍下にあってもなお、この曲(2章「こわしてはいない」・6章「抱きしめよう」)を歌うチャンスが再来したことは、世界に誇る平和憲法を守りたいという多くの人々の願いの結晶とも言えるのではないのでしょうか。



また、6章は、パンデミックや政情不安な状況下だからこそその説得力のある詩だと感じています。

日本のうたごえ祭典を2か月余り後に控えた9月23日の初レッスンは、オンライン配信で行われました。本番でタクトを振られる池辺晋一郎氏への心遣いが、事前の練習を担当される三上和伸氏の言葉の随所に感

じられたレッスンでした。池辺氏の思いも含めた、三上氏の印象深い一言を紹介してこのページをとじたいと思います。

「憲法前文にある崇高な理念を表現するために、厚みを持たせる歌い方が大切です。また、こうした憲法を有することに誇りをもって高らかに歌っていきましょう。」

(企画委員 TF コーラス 松田雅子)

広島市在住で、市民活動をされている川本正晴さんより、祭典開催に向けて、次のような心のこもったメッセージをいただきました。
感謝の気持ちを込めて紹介させていただきます。

うたごえは平和へのメッセージ

川本 正晴

コロナ禍の今ほど、私たち一人一人の命の重みを実感することになるとは数年前には想像すらしていませんでした。

かつて日本は、取り返しのつかない無謀な行為「第二次世界大戦」を起こしました。その無謀な行為によって失われた数えきれない人間の命は決して忘れてはなりません。「無言館」もその意志を永遠に記憶させています。

もう二度とあのような苦しみや悲しみを味わうのは嫌だ！というのが日本のいや、世界の人々の気持ちであり、その切実な想いや願いをまとめたものが「日本国憲法」です。

詩人のアーサー・ビナードさんのことばを借りれば、「アメリカでは、憲法が無視され平和のための議論が成り立たない。日本が同じようになり下って欲しくない」と。

平和への最大の願いが込められている日本国憲法の特に「前文」と「第九条」は世界に誇れる壮大な詩であると思います。

今回の「2021 日本のうたごえ祭典 in ひろしま」での私たちに与えられた全ての歌こそ、最大の「平和へのメッセージ」だと確信しています。

歌の奥底に込められている「戦争は二度と繰り返してはならない」という言葉の意味を大切にしたいし、つい先ほどまで、ドアの向こうに戦争があったということと、そして眼前のドアの向こうに、別の戦争が眼を光らせて待っているということを決して、忘れてはならないと思います。声の続く限り、伝え続けましょう。私たちの子どもや孫たちやそのあとに生まれてくる者たちのために。声の続く限り歌い続けましょう。